



県本部に新たな仲間 壱岐市環境労組結成

役員体制
執行委員長 江川 満
副執行委員長 村田和也
書記 長 久原功己
執行委員 川上雅司
立石善嗣
雨海悠斗
野元 翼
特別執行委員 井村義則
(県本部)
会計監査 石川清二

2月1日、壱岐の島ホールにおいて「壱岐市環境管理組合職員労働組合」結成大会が開催され、組合員30人中30人（委任状6人を含む）、来賓等12人が参加しました。
壱岐市環境管理組合は壱岐市の委託により、一般廃棄物の適正処理と再資源化や、し尿、浄化槽汚泥及び家畜糞尿の適正処理と再資源化を行うことにより生活環境の保全、公衆衛生の向上及び資源循環型社会の形成に資するため設置された管理組合です。
壱岐市環境管理組合に働く職員は、労働基準法に則った労働条件となっていない部分があり、就業規則通りの運営もされていないなど、不平不満があっても、当局と交渉する術がありませんでした。
そのようなことから、多くの職員の声を一つにし、当局と対等に交渉が出来る労働組合の結成の取り組みを始め、組合結成に至りました。
今後は、職場環境の改善と勤務・労働条件の確立にむけ、組合員一丸となって取り組みます。

「新採加入4.1行動」で仲間を増やそう

間もなく4月です。多くの職場で新たな仲間が入職してきます。
この間、新採者の組合とじちろう共済の同時加入をめざして取り組んでいますが、ここ数年は順調とはいえません。そのような中でも、入職後早い時期に加入の呼びかけを行うことで高い加入率につながっているという事例もあることから、今年4月1日に加入の呼びかけをはじめ何らかの声かけなどを行う、「新採加入4.1行動」を全単組で実施します。
仲間を増やすためには、組合員だけでなく組合員一人ひとりの協力が必要です。「同じ職場」「年齢が近い」「同じ地域出身」などそれぞれのつながりから声をかけ、みんなの力で全員加入をめざしましょう。



岸 まきこ 応援カード

岸まきこ
チャンネル登録
ともだち登録も
お願いします！

五島市議選



草野久幸7選
2月9日投開票で実施された五島市議選において、県本部推薦の草野久幸さんが855票を獲得し10位で当選を果たしました。
組合員のみなさんの取り組みに感謝いたします。

組合員が利用できる「じちろう共済」制度
「じちろう共済」は組合員が利用できる制度で、低い掛金で補償が充実しています。「長期共済」「税制適格年金」といった高い返戻率の積立制度や、思いがけない事

たくさん仲間でできるのが組合
同じ職場でも部署が違ったりと意外と接点がありませんが、組合活動には色々な部署や年齢の仲間がいます。また、県本部の集会に参加したこと、違う自治体に仲間がいて、長く付き合いができて、

困った時に相談できるのが組合
「（職場に）入る前のイメージと違っていた」という声が多く聞かれます。時間外勤務が多いことや、みんな忙しいので分からないことであっても聞きにくいという声もあります。そのような時に相談できるのが組合です。一人では解決できないことも、みんなで助け合って解決をめざす組織です。

新採職員へ伝えたいこと

マンガ笑タイム
by Mr. Rin
春一番

壱岐高校が
甲子園
出場ですよ!!
やったね!

良い意味で
春一番を
巻き起こして
ほしいな!

偏西風 (2025.3.15)
今年是被爆戦後から80周年となります。被爆者の平均年齢も85歳を超え、今年の80周年において、核なき世界の実現に向けた取り組みをさらに強化して行かなければならない年だと思えます。▼昨年は被団協がノーベル平和賞を受賞しました。この受賞も核兵器廃絶に向けた流れだと思えます。▼3月にアメリカ・ニューヨークで核兵器禁止条約の第3回締約国会議が開催されました。今回の締約国会議では、停滞する核軍縮の対応や核被害者の支援に向けた議論が行われました。▼この内容からすると、日本が戦後唯一原爆が投下され、どのような被害があり、その後、どう復旧してきたかを経験した国です。そういった意味では、日本が経験や知見など他の国が知らない情報をたくさん持っていますし、そのことを国際社会の中で活かしていくのが、日本の役割であり、核兵器廃絶に向けた第一歩ではないでしょうか。▼しかし日本政府は核保有国と非核保有国との橋渡し役を担うと言いつつ、対立を招くという理由で核兵器禁止条約へはオブザーバー参加すらしませんでした。橋渡しを行うのであれば、核禁条約に参加している国々の思いや意見を聞くべきであり、そのために核禁条約に参加すべきでした。非常に残念でなりません。▼今、衆議院では自公政権が過半数割れしている状況であるにも関わらず、依然と変わらないような強引な態度に見えてなりません。▼このことを変えるためには、今年7月の参議院選挙において勝利し、真の政権交代をめざす必要があると思います。私たちの要求実現に向けて取り組みを進めましょう。（米村豊）

